

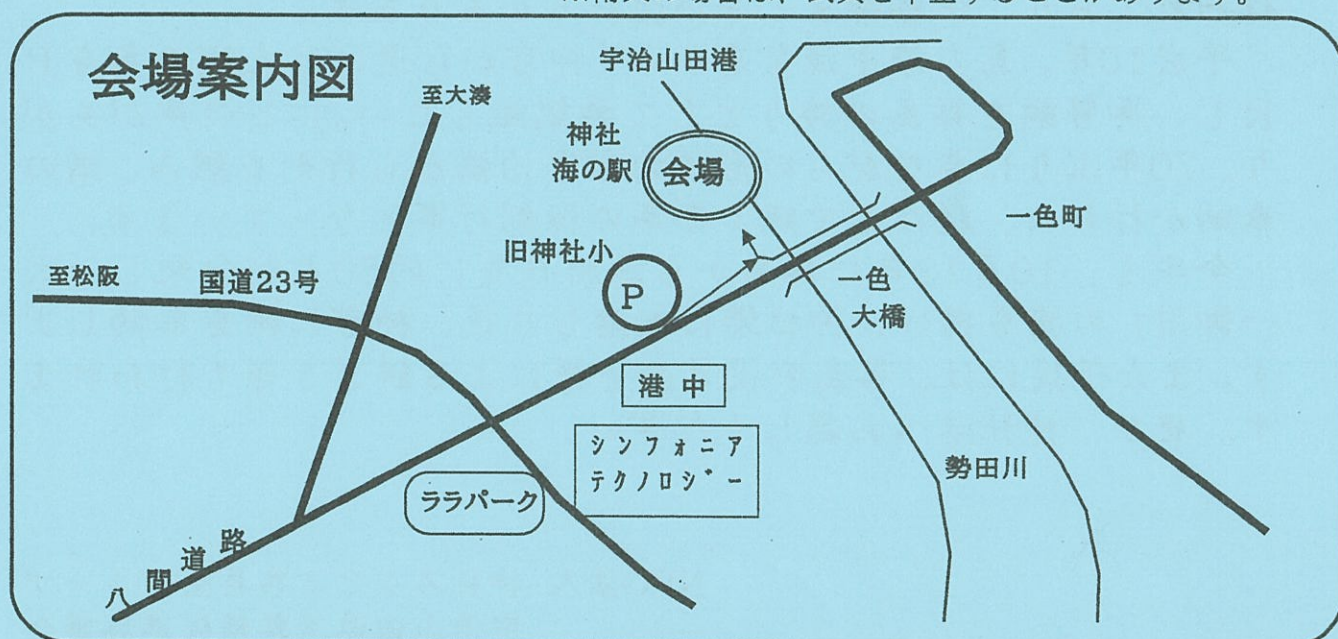
令和7年度 御幣鯛船歓送迎式典スケジュール

令和7年10月12日(日)

	時 刻	行 事	参 加 者
午前の部	7:40	鯛船篠島出港	篠島役員
	8:10	出迎え船 神社港出港	ビクトリア5世
	8:40	両船会合 バンド演奏	シャッフルバンドグループ
	8:50	鯛船棧橋前到着 鯛の陸揚げ	篠島役員
	9:00	歓迎式典開始 花束贈呈	大湊保育園児
	9:25	子供木遣り	神社辰組木遣り保存会
	9:35	式典終了 神社へ出発	篠島役員
	9:40	即売会	神社港辰の市
	9:45	バンド演奏	シャッフルバンドグループ
午後の部	13:30	出港式典開始	
	13:50	神社音頭他	神社港婦人連
	14:05	バンド演奏	シャッフルバンドグループ
	14:15	餅まき	篠島役員
	14:25	テープ交換	全 員
	14:30	鯛船神社港出港	篠島役員

※進行の都合上、時刻が変更になる場合があります。

※雨天の場合は、式典を中止することがあります。



神社海の駅は、「みなとオアシス伊勢」の登録を受けた施設です。
みなとオアシスについては、右記二次元コードからご確認ください。



問合せ先:NPO法人 神社みなとまち再生グループ(TEL0596-36-3755)

篠島「太一御用」^{おんべだい}御幣鯛船

令和7年10月12日（日）開催

愛知県知多郡南知多町大字篠島字中手島では、古くから神宮の三節祭にお供えする干鯛が作られています。干鯛とは、生の鯛の内臓を除き、井戸水でよく洗い、海水で浄めて、食塩をたっぷり入れた樽に漬けて、村の倉庫に数日貯蔵されたものを西風の強い日に再び海岸に運び、潮洗いして1枚ずつ広げ、竹のくしなどを立てて注連縄を張る青竹に囲まれた浜で干した鯛です。

六月の月次祭には、目の下1尺5寸（約45センチ）の身卸鯛が28枚、1尺2寸（約36センチ）の大干鯛が50枚、7寸（約21センチ）の小干鯛が110枚作られ、十月の神嘗祭と十二月の月次祭には、身卸鯛は使わず大干鯛、小干鯛が作られ、毎年、これら合計508枚が神宮に奉納されます。

神宮に奉納される干鯛は、かつては「太一御用」の旗を掲げた新造船で唐櫃に納めて運ばれました。河崎港から道中を露払いし、大名行列さえも下馬させ、沿道の人々は土下座したといわれています。

篠島は鎌倉時代には志摩国志摩郡に属し、室町時代には伊勢国度会郡に属していたことがあり、神宮領とされていました。現在も篠島にある神明神社、八王子社は内宮の東宝殿の古材で遷宮が行われており、伊勢神宮と深い関わりがあります。

平成10年、島の若手漁業者から「神宮から選ばれた鯛の島をPRし、御幣鯛を篠島の誇りとして再認識したい。」との声があがり、70年ぶりに昔ながらの形で内宮宇治橋から行列を組み、鯛の奉納が行われ、現在まで続く毎年の恒例行事となっています。

今年も、10月12日に篠島から漁船6隻に約50人が分乗し「太一御用」の旗を掲げ、神社港に入港した後、神宮に鯛を奉納します。また午後には、篠島の役員の皆様による餅まき等も行われます。ぜひ、神社港へお越しください。

NPO法人 神社みなどまち再生グループ
宇治山田港湾整備促進協議会